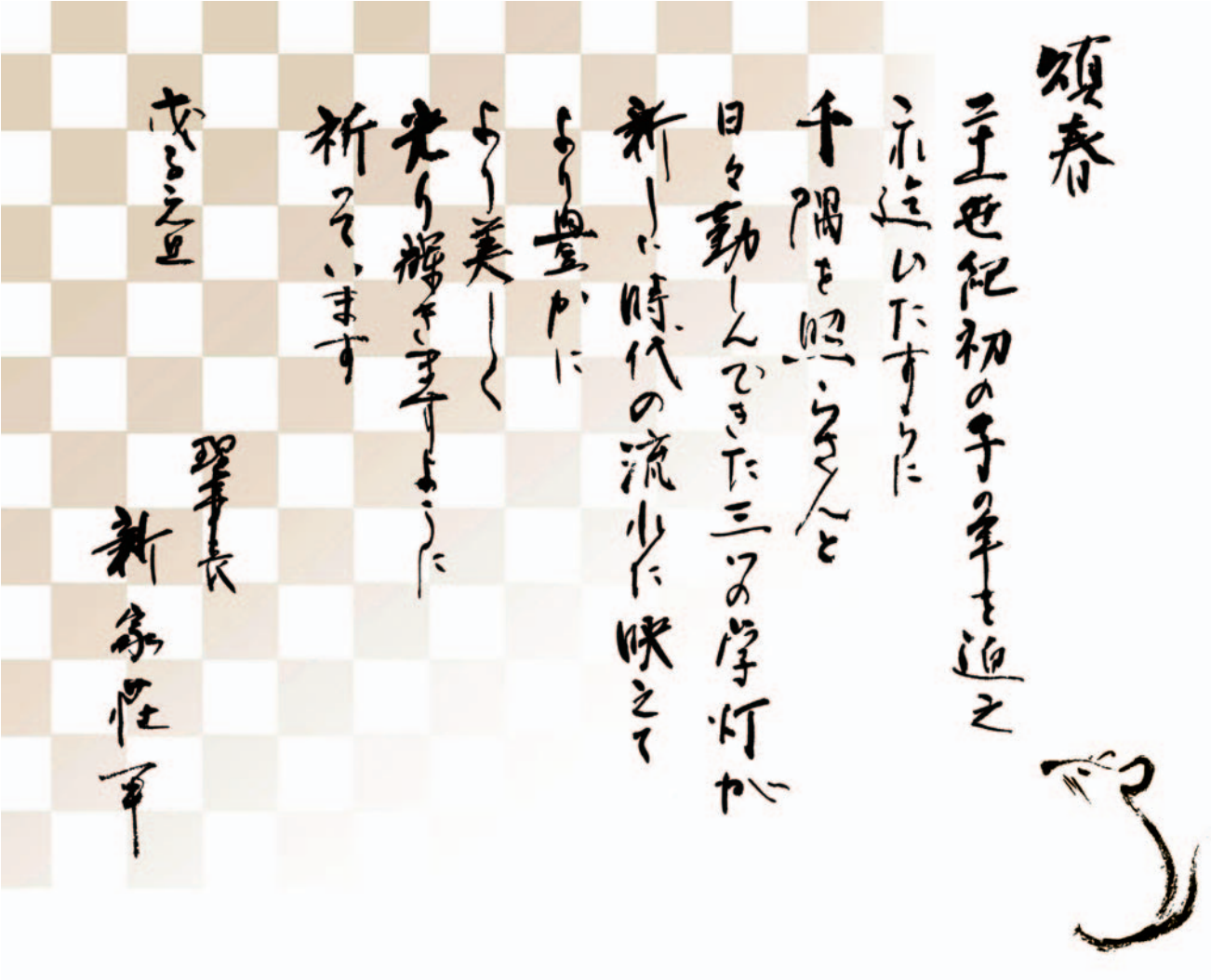
学校法人兵庫医科大学

兵庫医科大学　兵庫医療大学

広報 第191号　平成 20 年 1 月

建学の精神　・社会の福祉への奉仕　・人間への深い愛　・人間への幅の広い科学的理解



目　次

特　集

年頭の言葉……1

2008年 新年座談会……2

TOPICS

兵庫医科大学……6

兵庫医科大学病院……10

兵庫医療大学……12

附属看護専門学校……16

法人……17

主要会議とその議題……25

お知らせ

兵庫医療大学のための募金 状況報告……27

年 頭 の 言 葉

理事長　新家　荘平

新年明けましておめでとうございます。平成20年の年頭に当たり、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

今年の干支は、本学開学の昭和47年の壬子（みずのえね）から、十二支が三まわりした戊子（つちのえね）。三度目の振出しに戻った様で、改めて時の流れが早く感じられますが、その36年間、本学は当初の初心を継続しながら着実な発展を遂げて参りました。

さて、昨年の丁亥（ひのとい）の年。動的な火と静的な水が相剋する干支の組み合わせとされていましたが、本学にもそのプラスとマイナスの相反する両面が如実にあらわれました。

前者の熱い火としては、先ず第一に、薬学部、看護学部とリハビリテーション学部の３学部から成る兵庫医療大学が無事開学し、大学史に大きな一歩をしるしたことがあげられます。更には、一昨年立ち上がった「中皮腫・アスベスト疾患センター」の延長線上に「がんセンター」が新設されたこと、近隣の大学と共同で申請した「がんプロフェッショナル養成プラン」が文部科学省により採択されたこと、本院の肝疾患治療に関する実績が評価され、国の指示を受けた兵庫県から本院が肝疾患診療連携拠点病院に選定されたこと、胃がんの外科に関しては国内外で名を馳せている国立がんセンター中央病院の笹子三津留先生を特命教授として招聘出来たこと、そして、国内外の老舗の大学と大学間連携協定を締結したこと等々が挙げられますが、こうして播かれた数々の種子は大樹となり、本学の名を高めてくれることになるでしょう。

後者の冷えた水について、その筆頭は何と言っても財政基盤を左右する病院収支の低迷です。前半は特に悪く後半に入ってようやく回復の兆しが見えてきましたが、この三月末の決算では可成りの落ち込みが予想されます。

その要因として、診療報酬改定、医療経費膨張、看護師不足、医師人件費の増加、空床の増加等をはじめとする様々な問題点が挙げられています。しかし、このような厳しい現況の認識は、すでに学内にこれまでに無い意識改革の高まりをもたらしただけでなく、難局打開のための多角的かつ積極的な改善策を生み出す結果となり、その流れに棹さす強い意欲と実行力さえあれば、凍った水が微温むのも時間の問題ではないかと考えています。

詩人バイロンの言葉にもありますように、人間の所業は、所詮、微笑と泪の振り子の連続であります。厳しい位置にある今の振り子は、やがてその向きを上向きに変えてくるものと信じておりますが、しかし、座してその時を待っている訳には参りません。

かつて本学は平成６年を改革元年と名付けて、改革を推進し、それ相応の成果をあげてきましたが、本年、振り出しに戻ったこの子の年を“維新元年”と名付け、徳川幕末、賞味期限の切れた組織や体制を刷新してわが国の近代化を成功させた明治維新の志士達の情熱を見倣って、本学内にも教育・研究・診療の三位に革命的な花々を咲かせたいと思っています。

子の新しい年を迎えるにあたり、全学の若々しいエネルギーがねずみ算的に増大し、その力に導かれて本学が更に飛躍するように願ってやみません。

2008年 新年座談会

新年を迎えるにあたり、昨年を振り返りながら、
今年の抱負、取り組みを語っていただきました。

昨年を振り返って

森田事務局長：2007年は、兵庫医療大学開学に伴い１法人２大学という新しい歴史のページが開かれた年であり、一方で急性期病院への取組み、10年目を迎えた篠山病院など、課題の多い年でもありました。それらをふまえて、先ず昨年の振り返りをお願いします。

新家理事長：昨年を振り返ると、何よりも兵庫医療大学の開学が第一に挙げられる大きな出来事でした。多くの方々のご協力のお蔭で無事開学に至り、感謝の一言に尽きます。若い人々からの熱い眼差しを受けながら、松田学長の指揮のもと全員が力を合わして、その揺籃期を充実していただけるものと思っています。

新家理事長

又、本学内では、がんプロフェッショナル養成機関や肝疾患診療連携拠点病院に選定されたり、PETセンターに続いてがんセンターが設置される等、新しい種子が次々に播かれて来ました。

他方、まことに残念ながら、大学経営の基盤となる病院収支が思わしくありませんでした。収入の順調な増加に対して、経費増がそれを凌いでいる状況であり、その負の要因として診療報酬の改定、医師をはじめとする人件費増、医療経費の高騰等が挙げられていますが、様々な論議を重ねた結果、その対応策が浮上しておりますので、改善への手応えは充分に感じています。

理事会の諮問機関である経営企画室や学長直轄の広報室の新設をはじめとする様々な組織の改変は、厳しい環境の中でも綿々と続く改革の流れに棹さしてくれるものと思っています。

一方、篠山病院問題については、存続か、撤退か、その決断の最終的段階に入っていますが、後続の世代に負の遺産は絶対残してはならないと思っています。

波田学長：教育面では、昨年４月からの学校教育法の改正に伴い､教員組織を一部変更しました｡従来の講座制・学科目制を維持しつつ改革を実施するため、外科学講座を大講座に変更しました。また、基礎系教室の一部を統合し、その中に部門を設けるという変革をしました。これにより、教室間の垣根を低くし、教育・研究の両面での連携や効果向上が期待されます。そして、基礎系教室の先生方の活動を学生に理解してもらい、学生のリサーチマインドを育むために、本年から３年生を対象に基礎配属を行うことにします。

兵庫医科大学 波田学長

新しい大きな取り組みとして、昨年７月に締結された関西学院大学との『学術交流に関する包括的協定』に基づき、本年の新入学生から関西学院大学にて４月から７月の間、週１日、３～５科目程度の教養的基礎科目の教育を行う予定です。

国家試験への合格率向上の観点から、６年生に進級する時に総合進級試験を実施するよう変更しました。また、新年度から５年生の学生を対象に、臨床に向けての心構えを新たにして頂くために、『白衣授与式』を始めます。

研究面では、がんプロフェッショナル養成プランの採択に伴い、大学院のコースとインテンシブコースでの取り組みを行い､昨年11月から学生の募集を開始しています。

研究面の学術交流の取り組みとしては、昨年９月に姉妹校である天津医科大学と相互の研究力向上を目的とした『国際学術交流シンポジウム』を開催しました。

また、10月にクロアチア共和国のRijeka大学医学部と学術協定を締結し、相互の交流の枠組みを現在調整中です。更に、関西学院大学との共同研究の取り組みについても現在協議中です。

兵庫医科大学病院 山村病院長

山村病院長：昨年は、病床の効率的運用と、７：１の看護体制の確保という問題改善のため、80床程度の削減を行いましたが、実施時期の問題もあり、４月、５月と200床以上の空床数を生むことになりました。更に診療報酬の大幅削減や医師、コメディカルの増員に

よる人件費増が重なり、経営面で足を引っ張る結果となりました。その後の努力で上昇機運にありますが、一層の努力が必要です。

特に、薬品と医療材料の増大が問題です。現在、削減に向けての努力をしておりますが、薬品の大幅削減、若しくは、現在検討中の院外薬局・院外処方箋の導入による改善の必要性があります。

良い面としては、8月から7：1の入院基本料が取得できるようになりました。また、急性期の患者増などにより手術数が増加し、入院単価増・収入増につながっています。

診療体制としては、がん診療の拠点病院としての体制作りが進んでいます。外来の化学療法患者に対して受診負担を軽減するために快適なリクライニングシートを導入したり、胃がん手術で有名な笹子先生を特命教授としてお迎えしたりなど、体制は整いつつあり、患者増につながってきています。

また、内視鏡センターでは、細径のファイバーやカプセル内視鏡の導入により、患者の負担を減らしながら、より高度な治療ができる体制作りを進めています。

松田学長：兵庫医科大学の長年の目標であった姉妹大学が無事開学し、何もかもが新しい、感激の多い一年でした。

多くの学生が集まり、我々の目指す「ボーダレス」「チーム医療」「臨床に強い専門職を育てる」という考えが、教職員を始め学生にも浸透し、予想以上のスタートが切れたと感じています。

兵庫医療大学 松田学長

一年生だけですのでまだ基礎教育が中心ですが、全学生に対して『医療科学概論』という医療入門講座を行いました。講座の締めくくりとして兵庫医科大学で早期臨床体験実習を行い、早期に医療の現場に触れることにより、学生達のモチベーション向上に大きく寄与したと学生も私たちも感じています。この実習では、各病棟の師長さんを始め看護師の皆さんに多大なご協力を頂き、大変感謝しています。

教員体制としては、薬学・看護・リハビリテーション各部門があり、共通教育センターが基礎教育を横断的に支えるようにしています。ここには、私が「5人衆」と呼んでいる兵庫医科大学から来ていただいたベテランの先生方に、大きな役割を果たしていただいています。学習の進行状況のみならず、学生のケアやサークル活動など、多岐にわたって頑張っていただいており、心強く感じています。

学生達も後期に入った頃より、ずいぶん大学生らしくなり、学生部やサークル活動も活発になってきました。

地域との連携も大きな課題としており、地域連携推進センターを設置し、第一回目の公開講座と健康相談を実施しました。今後も2ヶ月に1度の実施を継続していこうと考えています。また、近隣4大学の連携も今後進めていこうとしています。

森田事務局長：10月に行われた文部科学省の履行状況調査のヒヤリングでも、学生の意見は概ね良好だったようですね。その後の学生の反応はいかがですか？

松田学長：今まで3度アンケート調査を行いましたが、交通の便に対する意見が多かったですね。学食がなかったので、近隣大学の学食に食べに行っていたという意見は、10月の学内レストランオープンにより、ようやく解消しました。（笑）

佐藤副学長：開学にあたり、優秀な学生が集まってくれたということが第一の印象でした。その学生達に、どのように良い教育を受けさせてあげられるか、またそういった実感を持ってもらえるかということが我々の第一の課題であると捉え、それに向かって考え行動してきた一年でした。

その中で、早期に教育力を充実する必要性が見えてきました。全学的なFDを実施していますが、学長の発案された3学部の教員室を合同階にしたことが大きな効果をあげています。教員の学部間の垣根が無く、協力体制を取れたことは、新大学の船出に大きな力となっています。

一方、教育研究機関として様々な研究を進めていく必要があるのですが、一年目は教育に軸足を置いてきました。現在科研費に多数応募しておりますが、その中からどういった研究を進め、大学の内容を形作っていくかが今後重要なことだと思います。

3学部ともに実践力のある学生を育てていくことが大きな課題ですが、本学の強みである兵庫医科大学との連携、特に看護学部やリハビリテーション学部においては、看護部が教育環境としての臨床を整えてくれたことで、大きな成果を上げて

兵庫医療大学 佐藤副学長

いると実感しています。「共に育てる」という感覚を共有できたこともよかったと思っています。

今後は、協力を仰ぐだけでなく、兵庫医療大学として何らかの形で寄与できるようにしていきたいと考えています。学生達も兵庫医科大学病院で行われた大規模災害訓練にボランティアとして自主的に参加し、自分たちの社会的役割についての気づきがあったように感じられ、頼もしく、また楽しみに思いました。

地域交流の面では、神戸市からボランティア学生の要請を受けるなど、徐々にですが認知が広まっているのを感じています。

両大学の連携とこれからの可能性

森田事務局長：両大学の連携についてどのようにお考えでしょうか。

新家理事長：医科単科大学が、薬学・看護・リハビリテーションという新しい3学部を作ることは大きな冒険でしたが、21世紀の医療の主流となる「チーム医療」に関る質の高い医療専門家の育成は大変意義深いものと思っています。従って、「チーム医療」と言う篝火のもと姉妹校の両大学が連携するのは言わずもがなで、これこそが新大学を魅力的にする特色だと思っています。医療系教育では人間を対象とした臨床実習が特に重要であり、この点、医学部や病院の新大学への協力は、他学では見られない大きな教育効果をもたらすことでしょう。

松田学長：薬学部の学生にとって、薬剤師が病院の中でどう働いているかを学習できることは、将来へのモチベーションを高くさせます。兵庫医科大学との連携を具体的に実現していくことが必要ですし、兵庫医科大学病院としても、薬剤師の働く場所を広げていってほしいと思います。

佐藤副学長：昨年、兵庫医療大学の教員と看護部との効果的な臨床教育上のコミュニケーションを実現することができました。同様に、両大学それぞれの教員が積極的にコミュニケーションをとる事が、今後の教育にとって何より重要だと思います。教員同士が知り合わずして、どうやって共に教育ができるのか、ということですね。

波田学長：おっしゃるとおりです。2年程すると臨床実習も始まりますので、交流セミナーなどを設けるなど、早いうちから連携機会を増やすことが必要です。

松田学長：兵庫医療大学では、医薬共同先端医療センターができましたので研究面では徐々に交流が始まっています。今後、ホームページなどを活用して両大学の情報を共有し、交流の機会を増やしていくことが必要です。

新家理事長：学生の間では、授業以外でも、既に両大学の連携が始まっているようですね。防災訓練の時もそうですが、クラブ活動など、どんどん交流が進んでいるのは喜ばしいことです。

佐藤副学長：昨年実施した事をフィードバックしながら、それを生かして徐々に連携機会を増やしていきたいですね。

松田学長：例えば、我々の目指す『チーム医療教育』を病院側ではどう捉えているか意見交換することによって、それを教育に生かすことができますし、また、それをキーワードにして、医科大学生と医療大学生との交流など、ボーダレスな交流に発展する可能性もありますよ。

地域貢献、社会貢献

森田事務局長：従来、象牙の塔に象徴される大学の在り方が、社会貢献、地域貢献へと拡がっているようです。

佐藤副学長：学問学術に対する考え方において「真理を追究すること」に置かれていた重点が、「社会に活用されること」へと移っています。大学で研究していることをどう発信しているかが評価として問われているのでしょうね。

松田学長：大学は学生の教育をしているだけでなく、地域の方々向けの公開講座を行うことで社会貢献ができるわけです。

山村病院長：病院の方では、公開講座を継続して行っていることでの地域貢献を始め、地域連携パスを作成して各科で地域中核病院との連携が始まっており、今後がん連携拠点病院としても同様の地域連携が一層進むでしょう。単独ではなく地域として患者さんを診ていくという体制作りが進んでいく流れになっています。

新家理事長：人間性豊かな、又、社会性に富んだ質の高い医療従事者を世に送り出すことに尽きるのではないかと思います。特に、最近の我が国の医療危機において、自我を出来るだけ抑えて僻地医療などの使命感を持つ様な若い医師を育てたいですね。

波田学長：まず僻地の医療を体験することが大切です。教室で地域医療を説くことよりも現場で何かを感じる機会を与えることがその方法論だと思います。

松田学長：学生の病院実習についても、地方の病院に行く環境作りと共に、それに対しての評価をする制度作りが必要ですね。

波田学長：知的財産の活用についても、兵庫医科大学では数多くの特許申請を行っており、それを有効活用するための組織を整備中です。今まで、論文を書くことに集中してきましたが、これからはその研究結果がどう社会で役立てられるかという観点で、知的財産統括室と相談しながら進めていくことが、社会貢献にもつながるのではないでしょうか。

今後の経営および教職員に期待すること

森田事務局長：最後にこれからの経営方針とそれに伴う教職員への期待はなんでしょうか？

新家理事長：経営面でいえば、総合的に考えて、医療経費削減が目下の急務ですが、患者増や急性期医療の推進をはじめとする様々な病院機能の活性化に取り組み財政基盤を安定化していかねばなりません。そのために最も必要なことは、全教職員の現状認識の上に立脚した意識改革であり、そこから改善への意志と知恵そして実行力が生まれて来るものと思っています。常識を破ることを常識とする様々な水平思考も、厳しい現状に必要なことかも知れません。

山村病院長：その点に関しては、入退院管理プロジェクトチームだけではなく、各病棟に携わる医師・看護師で、対話を一層深めることが必要です。その中から意識改革も進んでいくと考えています。教職員全体が質の高い医療を進めていくと共に、経営感覚を持つことも求められています。

病院経営については、より一層空床を減らし、収入を増やすことが目標ですが、それには看護師の数の確保という問題も伴ってきます。できる限りの努力をしたいと考えています。医療材料の削減、医薬品の品目数を減らすことも進めていかなければなりませんが、これには各診療科の絶大なる協力を期待しています。

波田学長：教職員に対しては、国家試験の合格率95%を実現するために、進級の条件である65点以上の実力がつく教育をする努力をしていただきたいです。

学生に対しては、たくさんの税金を使って学ばせてもらっていることを自覚し、国民国家に奉仕するというような気持ちをもって、勉強していただきたいと思います。それがひいては国家試験の合格率向上につながると思います。

松田学長：兵庫医療大学は2年目を迎え試練の年だと思っています。多くの良い学生を集めることを第一に、広報を含め活動していきたいと思います。特に薬学部については競争が激しいので、我々の強みを十分にアピールする必要があります。また、ボーダレスなチュートリアル教育を導入しようと考えています。チーム医療について、どう捉え教育していくか、教員間で十分なコンセンサスを取りながら進めていきたいと考えています。

佐藤副学長：3学部共に、学生にとって国家試験に合格することが目標ですので、国家資格に求められていることを補完しながら、教育に反映していくのが2年目の第一の課題です。もう一つは教員の教育力向上に向けて、FD委員会で相互理解力を高め、互いの発展につなげることです。考え方を統一し共有することが重要で、組織として後々つながっていく基になると考えています。また、教育もさることながら、研究力の特化を進めていくこともこれからの課題です。

病院に期待することなのですが、学生の未来像は病院の中にありますので、マグネットホスピタルとしての役割を担っていただきたいと思います。

新家理事長：本学内では、今なお、講座や部局間の壁が高すぎて、全学の持つ大きな力が分散してしまっている様に思えてなりませんが、今後は大学全体が一体となって上昇気流に乗れる様に、互いに協調性を響かせあって、相乗効果を高めていただく様に願っています。どんな組織でも足し算よりも掛け算に大きな花が咲くのは古今を通じての真理です。

森田事務局長：ありがとうございました。

・兵庫医科大学TOPICS・

平成20年度大学院医学研究科 入学試験（前期募集）

9月21日㈮、大学院医学研究科入学試験（外国語試験）を実施しました。

同時に、課程を経ない学位申請者に対する外国語試験（第51回）を実施しました。

【大学院医学研究科入学試験（前期募集）】

受験者数　13名
合格者数　13名

【課程を経ない学位申請者に対する外国語試験（第51回）】

受験者数　13名
合格者数　11名

また、8月1日㈬、学位をもたない本学教員の大学院医学研究科入学試験を実施しました。

【本学教員】

受験者数　1名
合格者数　1名

（学務課）

平成20年度兵庫医科大学　推薦入学試験

11月11日㈰、平成20年度兵庫医科大学推薦入学試験を次のとおり実施しました。

試験科目：適性テスト・小論文・面接・調査書
合格発表：平成19年11月26日㈪午前10時

入学定員	100名
募集人員	約15名
志願者	60名（32名）
受験者	60名（32名）
合格者	17名（10名）
実質倍率	3.5倍

実質倍率は「受験者／合格者」
（　）内は、女子・内数

（入試課）

文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」の取り組みについて

兵庫医科大学大学院医学研究科において、以下のとおり学生募集を開始しました。

※コースの概要、入学試験日程等は大学院ホームページに掲載

Ⅰ．平成20年度博士課程学生募集（3コース）

・がん総合医養成コース（平成20年4月入学）
　放射線腫瘍専門医養成コース
　がん薬物療法専門医養成コース
・がん専門コメディカル養成コース（平成20年4月入学）
　医学物理士養成コース

◎「がん治療」を多方面からアプローチできる『がん総合医』等を養成します。
◎共通特論受講等により必要な単位の習得を行い、がんの治療・研究に関する教育を行います。
◎連携病院の協力のもと、がんの治療･研究の最前線を学び、博士の学位取得と共に日本放射線腫瘍学会認定医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医等の資格を取得することを目指します。

Ⅱ．インテンシブコース研修生募集（3コース）

・がん疼痛制御（緩和ケア）インテンシブコース（平成20年1月開講予定）
・放射線治療インテンシブコース（平成20年4月開講予定）
・がん薬物療法医インテンシブコース（平成20年4月開講予定）

◎がんの診断・治療・研究に必要な知識と技術を有する医師及びコメディカルを養成します。（1～2年間）

また、これらの取り組みについて新聞に取り上げられました。（P28参照）

平成19年度兵庫医科大学篤志解剖体慰霊祭

平成19年度兵庫医科大学篤志解剖体慰霊祭は、10月16日㈫午後２時からご遺族・ご来賓など関係者多数をお迎えし、平成記念会館講堂において厳かに執り行われました。

当日は、約300名のご遺族・献体登録者を初め、教職員・学生（２、４年生中心）併せて約620名の方が参列・献花されました。

慰霊祭は、本学の医学教育・研究及び医療の向上のために自らのご遺体を捧げられた方々を祭祀するため、毎年秋に無宗教の形で執り行われております。

本年度新たに祭祀させていただきました御霊は、系統解剖49柱、病理解剖50柱及び法医解剖149柱のあわせて248柱でした。

式はご霊位の奉読に始まり、全員黙祷の後、波田学長をはじめとする学内関係者がそれぞれ慰霊の詞を述べました。また、ご来賓の方々を代表して、西宮市長様より弔辞をいただき、次いで学生を代表して第２学年次生　沢辺　潤子さんが謝意の詞を述べました。引き続いて、故人のご冥福をお祈りして、参列者全員が献花しました。

ここにあらためて、すべての御霊のご冥福を心からお祈り申し上げますと共に、ご遺族の深いご理解に対し、心からお礼を申し上げます。

（教務学生課）

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

（単位：千円）

助成団体名	研究課題名	研究者	交付額
（財）内藤記念科学振興財団	新規サイトカインIL－27による抗アレルギー作用の研究	善本　知広（免疫学･医動物学）	2,000
（財）内藤記念科学振興財団	炎症性サイトカイン分泌に必須のカスパーゼ１の活性化機構に関する研究	筒井　ひろ子（病原微生物学）	2,000

学 位 の 授 与

甲第490号

木田　安宣　（H19.11.1）

（学位論文名）

Recognition memory for unfamiliar faces in Parkinson's disease: Behavioral and electrophysiologic measures

（パーキンソン病の未知顔に対する再認記憶機能：行動学的ならびに電気生理学的検討）

甲第491号

金森　徹三　（H19.11.1）

（学位論文名）

Sodium Channel Blockers Enhance the Temporal QT Interval Variability in the Right Precordial Leads in Brugada Syndrome

（Brugada症候群における心室再分極相の時間的ばらつきの検討）

乙第299号

小林　照美　（H19.11.1）

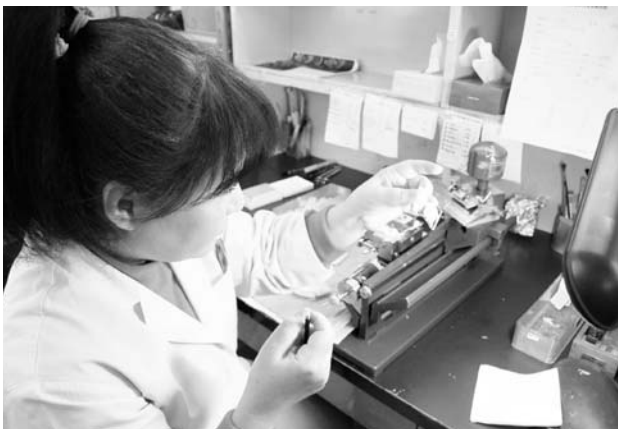
（学位論文名）

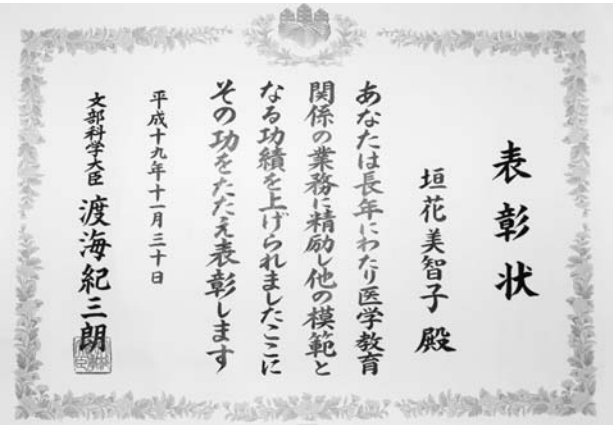
Effects of sucrose on plasma concentrations and urinary excretion of purine bases

（蔗糖の血漿プリン塩基に及ぼす影響）

病理学講座 分子病理部門（旧病理学第二講座） 垣花 美智子さん 文部科学大臣より表彰

文部科学省から「平成19年度の医学教育等関係業務功労者」として，病理学講座 分子病理部門（旧病理学第二講座）の垣花 美智子技術員が表彰されました。医学又は歯学に関する教育研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労のあった方が表彰されるもので、垣花技術員は臨床検査関係業務に尽力されたことが評価されました。11月30日㈮ホテルフロラシオン青山において表彰式が行われました。




表彰状

垣花美智子 殿

あなたは長年にわたり医学教育関係の業務に精励し他の模範となる功績を上げられましたここにその功をたたえ表彰します

平成十九年十一月三十日

文部科学大臣 渡海紀三朗

科学研究費補助金の本学における取扱いの変更及び公募要領等説明会の開催について

文部科学省から通知のありました「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、本学において適正に運営、管理ができるよう、発注権限の変更、検収体制の強化及び人的活動に伴う事実確認等を定めましたので、関係各部署、研究者等に周知することになりました。

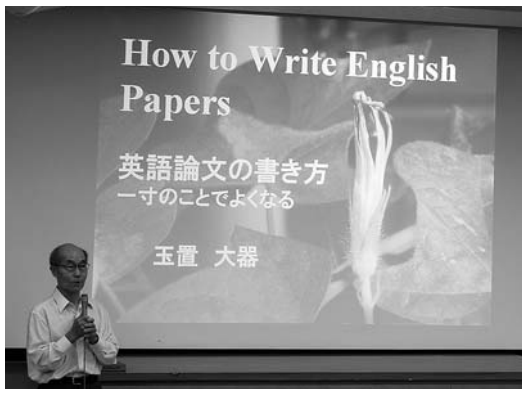
平成20年度の公募の時期を迎えましたので、９月28日㈮、文部科学省主催の説明会を踏まえ、申請方法等について研究者の方々に周知していただき、より多くの研究課題が採択されるよう、本学の説明会を開催しました。約150名に及ぶ参加者があり、補助金獲得に対する熱心な取り組みが伺えました。（学務課）

大学院の課程におけるFDの実施について

今年度より実施されました文部科学省大学院設置基準の一部改正により、本学におきましても種々の取り組みを行っていますが、教育内容の改善のための組織的な研修（FD）を行うことが義務付けられました。

その一環として、10月11日㈭、40年以上にわたり北米で多くの研究業績をあげてこられました玉置大器先生をお招きして「英語論文の書き方―一寸のことでよくなる―」という演題で大学院生の指導方法についてご講演をいただきました。

大学院生指導にあたられる教員だけでなく、大学院生も加え、73名の参加があり大変有意義な講演でした。（学務課）



第36回　醫聖祭

2007年度　大学祭実行委員長
第２学年次　友澤　翔

11月３日、４日の２日間にわたり、今年で36回を迎える兵庫医科大学大学祭『醫聖祭』が開催されました。両日ともに晴天に恵まれ、大いに盛り上がった大学祭となりました。

今年の６月に結成された、大学祭実行委員会一同は「Colorful」をスローガンに掲げ、さまざまな個性をぶつけ合い、１つのものを作り上げようと、開催までの数ヶ月、連日その内容を企画検討してまいりました。今年も平成記念会館を活用し、医療器具展示、フットサル大会、フリーマーケット、園遊会、美術部・写真部展示、チュートリアル展示を行いました。どれも一般の方々や学生から好評を得ることが出来ました。また、平成記念会館の大講堂において医学講演会と内視鏡シミュレーターの市民公開フォーラムを行い、医学講演会では元ボクシング世界チャンピオンの井岡弘樹氏をお招きし、井岡氏のホームドクターである篠原院長を交えて、「私のボクシング人生～過酷な選手生活と健康管理～」と題してご講演いただきました。市民公開フォーラムでも、内視鏡のシミュレーターの体験もでき、最新の医療技術を学べる非常に有意義なフォーラムになったと思います。本学の会場でも、中庭でのイベントや各クラブの模擬店が終日にぎわいを見せ、解剖展示、バザー等にもたくさんの方々がご来場くださいました。

学祭実行委員会が結成され、大学祭を開催するまでには幾多の困難がありました。勉強・クラブと実行委員の仕事を両立することは難しく、学祭１ヶ月前にもなると、疲れやイライラがたまり、皆身体的にも精神的にもきつい状態になっていました。しかし、「大学祭を成功させよう」という１つの目標に向かって進み協力しあったからこそ、何とか乗り越えられ、結果として学祭は成功したのだと思います。委員長をやってみて、人を動かすことの難しさを実感しました。委員長の仕事を成し遂げて、一生残る素晴らしい思い出を作ることができ、また、人生において非常によい経験をすることができ、本当によかったと思います。

最後になりましたが、今回の大学祭開催にあたり、多大なるご支援・ご協力をしていただいた理事長・学長・病院長・学生部長をはじめとした諸先生方、ならびに後援会や緑樹会の方々等、私たちを最初から最後まで色々な面で支えてくださった関係者の方々に、学祭委員一同、心より厚く御礼申し上げます。

医学講演会：左より篠原院長、井岡氏

知的財産セミナー開催

11月30日㈮、渡辺　仁氏(特許庁特許審査第三部生命･環境部門上席審査長)をお招きし、「医学分野の研究と特許」－大学における知的財産の活動に向けて－と題して、医学分野において、どのような発明が特許になり、どのような発明が特許にならないかなど、審査基準についての事例を踏まえた基調講演をしていただきました。

また、本年４月から本学に派遣されている野口正弘氏（独立行政法人工業所有権・情報研修館知的財産アドバイザー）より、本学の知的財産活動の取り組み状況、発明から出願、登録までの手続き等の紹介がありました。

第３回目の開催となった本セミナーは医学分野および本学の現状を踏まえたもので、参加者(教養系、基礎系、臨床系の医師・教員、コメディカル、事務員等)にとって関心深いものとなりました。（知的財産統括室）

特許庁特許審査第三部
渡辺上席審査長

・兵庫医科大学病院TOPICS・

病　院　概　況

患者数

区　分	入　院（診療日数61日）						外　来（診療日数45日）		
	診療日数	新入院患者数	退院患者数	在院延患者数	病床稼働率	平均在院日数	診療日数	新外来患者数	外来延患者数
		人	人	人	%	日		人	人
19年９月	30	1,400(46.7)	1,489(49.6)	21,965(732.2)	85.9	15.2	21	3,574(170.2)	48,283(2,299.2)
10月	31	1,559(50.3)	1,514(48.8)	22,651(730.7)	85.7	14.7	24	4,074(169.8)	56,243(2,343.5)
前年度対比	—	105.2%	103.7%	90.3%	1.1	△2.2	—	73.6%	99.2%

※(　)は１日平均

「がんセンター」の開設

当院のがん治療について、がんを横断的に扱う「がんセンター」を７月１日付けで中央診療施設に設置し、名称を「兵庫医科大学がんセンター」としました。併せて同センターの施設、設備面については、８号館４階に設置することとして改修工事を実施しておりましたが、11月１日（木）から外来化学療法室を含む施設として開設いたしました。

同センターの外来化学療法室については、従来10号館１階においてリクライニングチェアー10台で対応していましたが、今回の移転にあたりリクライニングチェアー17台、ベッド３台の計20台として、外来化学療法を受ける患者様が多く化学療法を受けられるようにしました。先行して10月22日㈪から稼働しております。

今後、同センターは、運用面において８部門により運用され、また各臓器がんを横断的に扱うため臓器別腫瘍評議会を設け、特にがんの画像部門においては、「がん画像診断協議会」を設置します。がん緩和医療については、「がん緩和医療協議会」を別に設け、がんセンターの充実を図っていきます。（管理課）

防災訓練（トリアージ訓練）

当院は平成８年10月に災害拠点病院として指定され、地域で災害が発生した場合、患者受入れの拠点病院となります。このため、例年シチュエーションを変化させ、現実に即した防災訓練を実施しています。今年は10月26日㈮に、大規模地震が発生し木造家屋が倒壊、武庫川河川敷の側道から車両が転落したことにより多数の歩行者が巻き込まれ、患者が救急車等で当院に搬送されたことを想定し、西宮市総合防災訓練と合同で、約140名（うち、トリアージ現場参加者－仮想患者47名、医師約20名、看護職員約25名、事務職員約50名）の参加を得て実施されました。今回は兵庫医療大学の協力を得て、学生29名に傷病ごとのメイクを施し、仮想患者として参加していただきました。訓練の様子がテレビ・新聞に取りあげられました。（P28参照）

（管理課）

特殊メイクを施される学生

搬送される歩行可能な仮想患者

市民公開講座　「胃癌とピロリ菌」開催

（後援：学校法人兵庫医科大学・神戸新聞社・兵庫県医師会）

10月13日㈯平成記念会館において、厚生労働省がん研究助成金18－２「ヘリコバクター・ピロリ感染による胃発癌機序の解明と感染・再感染予防」研究班（班長：兵庫医科大学臨床栄養部　福田能啓（写真））が下記の講演を行いました。約100名の受講者からは質問も多く、ピロリ菌への関心の高さが見受けられました。

演　　題	演　　者
ピロリ菌ってどんな細菌なのだろう？	神谷　　茂（杏林大学医学部　感染症学講座 教授）
ピロリ菌と胃癌は関係するのだろうか？ピロリ菌とヒトの病気	中島　　健（国立がんセンター中央病院　内視鏡部消化器科 医員）
ピロリ菌をどう診断するのか？	坂上　　隆（医療法人　坂上医院 医師）
ピロリ菌をどう退治するのか？	白坂　大輔（神戸赤十字病院　消化器科 副部長）
ピロリ菌の研究と臨床～今後の展開	福田　能啓（兵庫医科大学　臨床栄養部 部長・総合診療内科）

平成19年度　臓器移植推進県民大会

兵庫県臓器移植コーディネーター（ドナーコーディネーター）　藤原　亮子

兵庫県では県民の皆様に臓器移植への関心を高めていただくため、臓器移植推進県民大会を毎年開催しております。本年は10月23日㈫社団法人兵庫県看護協会２Ｆハーモニーホールにおいて開催し、300名の方がご参加くださいました。

講演では、『いのちの贈りもの～ドナーファミリーの思い～』と題して、生後９か月の息子さんを不慮の事故で亡くされ、心停止後に腎臓の提供をされました小倉千種さんにお話しいただきました。『息子は天使になりました。あの子は今働いています。日本では臓器提供に対し、まだ偏見が多い様です。でも、私たちは決して恥じないし、隠さないし、親として誇りに思っています。』

小倉さんによる講演

シンポジウムでは、移植の専門医である兵庫医療大学　松田学長、大阪大学医学部附属病院レシピエントコーディネーター小川馨さん、ドナーファミリーの小倉さんにご参加いただき、『日本の臓器移植の現状』について話し合いました。

現在、日本での臓器移植は低迷しています。私達は、単に臓器提供の数が増えるだけでなく県民の一人一人が臓器移植について考え、『臓器提供する』、『臓器提供しない』といった自身の意思を持っていただきたいと考えています。そして、私達ドナーコーディネーターの仕事として、『臓器提供したい』という方の意思を一人でも多く繋げていくことが大切だと思っています。

「肝がん撲滅フォーラム2007」開催

（後援：兵庫県医師会　神戸市医師会　西宮市医師会　神戸新聞社　阪神肝臓病治療研究会）

11月18日㈰兵庫医療大学オクタホールにおいて、兵庫医科大学 波田学長の開会の辞に続き、下記の講演を行いました。兵庫医科大学 内科学肝胆膵科 西口教授、神戸大学大学院 肝胆膵外科 具教授と各講師の方々との講演後の質疑応答では、活発な意見が交換されました。約300名の方がご来場くださり、盛況なフォーラムとなりました。

演　　題	演　　者
インターフェロンによる肝発癌抑制－今後の展開－	田守　昭博（大阪市立大学大学院医学研究科　肝胆膵病態内科学　准教授）
今　C型肝炎と闘う	狩野　吉康（JA北海道厚生連　札幌厚生病院第3消化器科　主任部長）
切除不能多発進行肝癌に対する経皮肝灌流化学療法を軸とする先進医療	富永　正寛（神戸大学大学院　肝胆膵外科　講師）
肝癌に対する粒子線治療の現状	村上　昌雄（兵庫県粒子線医療センター　医療部長）
肝硬変・肝癌に対する移植医療について	山中　潤一（兵庫医科大学　外科学　准教授）

・兵庫医療大学TOPICS・

平成20年度兵庫医療大学　推薦入学試験

11月10日㈯、平成20年度兵庫医療大学推薦入学試験（専願制）を兵庫医療大学神戸キャンパスで下記のとおり実施しました。

科 目 等：外国語・小論文・調査書

合格発表：平成19年11月16日㈮　午後3時

学部学科	入学定員	募集人員	志願者	受験者	合格者	実質倍率
薬学部医療薬学科	150名	約20名	38名（21名）	38名（21名）	25名（14名）	1.5倍
看護学部看護学科	100名	約30名	131名(119名)	131名(119名)	30名（28名）	4.4倍
リハビリテーション学部理学療法学科	40名	約10名	117名（42名）	116名（41名）	11名（3名）	10.5倍
リハビリテーション学部作業療法学科	40名	約10名	48名（32名）	48名（32名）	12名（8名）	4.0倍

また、12月1日㈯、平成20年度兵庫医療大学推薦入学試験（併願制）を兵庫医療大学神戸キャンパスで実施しました。

科 目 等：外国語・小論文・調査書

合格発表：平成19年12月7日㈮　午後3時

学部学科	入学定員	募集人員	志願者	受験者	合格者	実質倍率
薬学部医療薬学科	150名	約20名	67名（36名）	66名（35名）	47名（27名）	1.4倍

実質倍率は「受験者／合格者」　（　）内は女子・内数

（入試・就職グループ）

平成19年度科学研究費補助金交付決定者一覧表

平成19年度科学研究費補助金（12件　総額25,350千円（うち直接経費22,020千円、間接経費3,330千円））の交付が下記のとおり決定しました。

（単位：千円）

研究種目	研究課題名	所属部局	研究代表者	交付決定額 直接経費 （間接経費）
特定領域研究	腫瘍血管へ免疫細胞動員活性を誘導する生体プログラムの賦活化と抗腫瘍免疫監視の強化	薬学部	田中　稔之	3，500
基盤研究（B）	外来通院がん患者の主体性を育成・支援する看護実践能力および外来看護実践方法の開発	看護学部	佐藤　禮子	2，600 （780）
基盤研究（B）	乳がん体験者との協働による一般女性と看護職のための乳がん予防啓発プログラム開発	看護学部	鈴木　久美	3，100 （930）
基盤研究（C）	ヘルスケアにつなげる光触媒型活性酸素パッチの開発	薬学部	甲谷　繁	1，300 （390）
基盤研究（C）	海洋生物由来の細胞周期制御を標的とする抗がん剤シーズの探索	薬学部	青木　俊二	1，600 （480）
基盤研究（C）	ラジカル種の特性を活用した新規合成法の開拓	薬学部	宮部　豪人	1，200 （360）
基盤研究（C）	新卒看護師の職業性ストレスと離職意向に関する縦断研究：地域間における比較	看護学部	富永　真己	1，300 （390）
特別研究促進費	光切断リンカーを利用した生理活性物質ターゲット探索方法の開発	薬学部	田中　明人	2，200
若手研究（B）	広域分散ネットーワークにおける小型望遠鏡による協調観測システムの構築	共通教育センター	加藤　精一	500
若手研究 （スタートアップ）	グルタミン酸を特異的に検出する蛍光プローブの開発	薬学部	塚本　効司	1，320
萌芽研究	酸化ストレスを可逆的に捕捉できるRedox応答型蛍光プローブの設計	薬学部	前田　初男	2，000
萌芽研究	中高年男性のパタニティブルーズとうつ病発症との関連に関する研究	看護学部	西村　明子	1，400

兵庫医療大学　松田　暉　学長　日本心臓病学会栄誉賞受賞

2007年９月10日、日本心臓病学会から兵庫医療大学　松田暉学長が日本心臓病学会栄誉賞を受賞されました。受賞理由は、日本における心臓移植の再開とその普及で、第55回日本心臓病学会学術集会（９月10日～12日、東京）では「我が国における心臓移植：再開から定着へ」と題し、栄誉賞受賞記念講演が行われました。今年が臓器移植法成立10年という節目で、心臓移植再開への道のり、その後の状況と今後の展開について講演されました。

日本心臓病学会栄誉賞
松田　暉　殿
貴殿は臓器移植法制定後第一例目の心臓移植をはじめ我が国における心臓移植医療の発展に多大なる貢献をされました　また心臓外科医として重症心不全に対する弁形成術や左室補助循環の積極的な導入など本邦における心臓病学の発展に寄与するところ誠に大でありました
日本心臓病学会はかかる貴殿の功績を顕彰するとともにここに日本心臓病学会栄誉賞を贈り永くその栄誉を讃えるものであります
平成十九年九月十日
日本心臓病学会
理事長　松崎益徳

兵庫医療大学　平成19年度設置計画履行状況調査（実地調査）実施

新たに設置認可を受けた大学・学部等については、政令に基づき、大学設置・学校法人審議会大学設置分科会（文部科学省所管）により、授業科目の開設や教員組織の整備など開設後の状況等の調査を行う、設置計画履行状況調査（実地調査）が例年実施されています。本学においても、平成19年10月２日㈫に実施され、調査委員２名、事務担当官２名が来学され、ヒアリングや施設調査等が行われましたが、特に問題なく終了いたしました。

兵庫医療大学医薬共同先端医療研究センター開設

兵庫医療大学医薬共同先端医療研究センターは、医薬・医療に関する最先端の研究開発を行い、その成果を疾病の予防及び治療に反映させることを目的として、兵庫医療大学に医学及び薬学等の関連分野の研究推進を図るため設置された研究センターです。

同センターにおける研究プロジェクトとして、①中皮腫および悪性腫瘍の治療標的分子探索と治療薬開発：責任者　中野孝司教授（内科学、呼吸器講座）　②先端遺伝子医薬研究開発：責任者　後藤章暢教授（先端医学研究所、細胞・遺伝子治療部門）の２つのプロジェクトが10月１日より発足しております。10月29日には、センターの開設を記念して開所記念研究セミナーが兵庫医療大学にて開催されました。　（管理・運営グループ）

地域連携実践センター　第１回公開講座・健康相談 開催

兵庫医療大学地域連携実践センター主催の第１回公開講座・健康相談を10月20日㈯午後２時から開催しました。

公開講座は、平成19年度は「自分と家族の健康を考えよう」をテーマとして４回予定しています。その第１回として、薬学部が中心となって開催し、薬学部長の西原先生が「くすりと賢く付き合うには」という演題で、有益な「くすりの作用」を有毒な「どく作用」より大きくするための付き合い方について講演をされました。

健康相談は、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部・共通教育センターの８名の教員により、地域連携実践センターの相談室で行われました。また、地域連携実践センターの展示室には、生薬・漢方薬を展示し、薬学部の紹介と研究活動のポスターを掲示しました。

公開講座

地域連携実践センター

【今後の開催予定】

第２回　12月11日「自分のからだについて学ぼう　－乳がん自己検診法について－」（場所：地域連携実践センター）

第３回　１月26日「発達の気がかりな子どもの心の世界」　（場所：地域連携実践センター）

　　２月23日「健やかな子育て　－就学準備のために－」　（場所：ポートピア保育園）

第４回　３月予定「メタボリックシンドローム」　（場所：地域連携実践センター）

（管理・運営グループ）

第2回　FD研究会開催

第2回FD研究会は、9月11日㈫に東京工芸大学芸術学部の大島　武准教授を招聘して、「大学における教育力とは何か」と題して、「教育力とは」・「学習能力を高める授業の方法(戦略)：授業の組み立て方」・「教育力を高めるためのFD委員会での取り組み・工夫について」等の内容でご講演いただきました。

講演終了後、参加者（教職員43名）が4グループに分かれ、講演内容と本学の現状並びに今後について、グループ討議および全体発表を行い、兵庫医療大学での教育を更に向上するための改善方策を熱心に議論しました。

大島　准教授　講演

（教育・学生支援グループ）

自衛消防訓練実施

11月14日、兵庫医療大学で初めての自衛消防訓練を行いました。訓練は、教職員に加えて学生（薬学部・看護学部）も参加しました。4時限終了時の16時10分にM棟1階での出火を想定し、通報・初期消火・避難誘導の訓練を行いました。初めての消防訓練でしたが、教職員が学生をG棟南の空地に素早く避難誘導することができました。参加人数は、約220人（教職員　約40名、学生　約180名）でした。

（管理・運営グループ）

4大学連携「防犯講習会・護身術講習会」開催

11月28日・29日に、神戸ポートアイランド4大学連携事業として4大学合同の「防犯講習会・護身術講習会」を兵庫医療大学のオクタホール・レストランで開催しました。この講習会は、今年4月に兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸夙川学院大学がポートアイランドに開学し、多くの学生がポートアイランドに通学するようになり、学生の防犯対策として以前からあった神戸女子大学・神戸女子短期大学も加えた4大学合同で開催したものです。今後も、4大学でいろいろな連携事業を実施して行く第一歩となりました。

この講習会の様子が新聞に取りあげられました。（P28参照）

（管理・運営グループ）

兵庫医療大学レストラン　オープン

兵庫医療大学のレストランが、後期の授業開始の10月１日㈪にオープンしました。レストランは、P棟１階にあり、神戸市の「しおさい公園」そして神戸港に面し、一面ガラス張りとなっており、ポートタワーやハーバーランドが見えるとても眺めのいい場所に設けられています。座席数は約350席設けられ、昼休みになるとたくさんの学生で賑わっています。人気メニューは、シーサイドランチ（日替）、サラダうどん、親子丼です。低価格でおいしいメニューがいっぱいです。

（管理・運営グループ）

学 生 会 発 足

兵庫医療大学学生会総代　木下　雅人

この度、初代兵庫医療大学学生会総代に就任しました薬学部の木下雅人です。たくさんの方たちの協力の御蔭でここまで来ることができました。本当にありがとうございます。皆さんの意見を大事にし、クラブやサークルなどの支援から大学祭の準備までよりいっそう楽しい学生生活を送れるように精一杯努力致しますのでよろしくお願いします。

左より薬学部 横山君（会計）、木下君（総代）、澤田君（副総代）

・附属看護専門学校TOPICS・

第35回学校祭（睦祭）「どんだけぇ～!! 仲いいねん!! 108人」

10月19・20日最後の学校祭が開催されました。２年生45人３年生63人という少人数の中、２年生を中心に学生と教職員が一致団結し、心温まる想い出になりました。

１日目の講演では宇都宮師長から看護の心を、２日目のイベントでは専任教員の幼少、学生時代の写真を見ながら、看護師を志した頃の有意義な話が伺え、今後の実習に、また入職した際の心構えに生かせる充実した内容になりました。並行して第２回ホームカミングも開催し、集まった卒業生にも大変好評でした。

看護技術コンテストで枕カバーかけ競技を行う学生

第２回ホームカミングデイ

（看護専門学校事務室）

・法人TOPICS・

前学長　故　東野　一彌　兵庫医科大学葬

平成19年８月３日に逝去された　故　東野一彌　元学長の兵庫医科大学葬が平成19年10月27日㈯午後２時より平成記念会館でしめやかに執り行われました。

当日は、学外の方々及び学内教職員を併せて約300名におよぶ参列者があり、故人の業績を称え、その人柄を偲びました。

告　別　の　辞

東野一彌先生は去る８月３日午前２時５分にご自宅で76歳の生涯を閉じられました。先生が今年５月に瑞宝中綬章という勲章を拝受され、私共本学関係者が皆慶んでおりました矢先に、この悲報に接し、深い悲しみに包まれております。先生のご逝去を悼み、ここに謹んでお別れの言葉を申し上げます。

先生は昭和29年３月大阪大学医学部をご卒業され、大学院を修了の後、大阪大学医学部第３内科の助手、講師、助教授を経て昭和56年12月公立学校共済組合近畿中央病院の内科部長、副院長を歴任され、昭和58年１月より兵

前 学 長 故 東 野 一 彌 略 歴

出生　昭和５年９月20日（大阪府）
昭和29年３月　大阪大学医学部卒業
昭和34年３月　大阪大学大学院医学研究科単位取得退学
昭和35年３月　医学博士学位授与（大阪大学）
昭和35年９月　大阪大学助手（第三内科）
昭和49年８月　大阪大学講師（第三内科）
昭和53年５月　大阪大学助教授（第三内科）
昭和56年12月　近畿中央病院内科部長
昭和57年４月　近畿中央病院副院長併任
昭和58年１月　兵庫医科大学教授（内科学第３講座）
平成２年４月　兵庫医科大学病院長併任
平成11年４月　兵庫医科大学名誉教授称号授与
平成12年11月　兵庫医科大学長
平成16年３月　兵庫医科大学長辞任

庫医科大学第３内科学講座教授となられ、平成11年３月に本学を定年退職されました。兵庫医科大学在職中は、先生は内科学、中でも代謝病学、消化器・肝臓病学、臨床腫瘍学、呼吸器病学の分野の教育を担当されましたが、同時に医師としての基本的な知識を教授するのみならず、臨床医としての心構え、態度、技能についても厳しく指導され、立派な臨床医の育成に努められました。先生ご自身は大変謙虚でその博識を誇示されることは無く、何事にも熟慮を重ねて慎重に物事を決定されるタイプの指導者でした。先生の門下からは波田壽一、中西憲司、山本徹也、中野孝司の４教授など多くの医師、研究者が輩出されています。先生は在職期間中、平成２年４月より平成６年３月まで２期４年に亘り兵庫医科大学病院長をお勤めになり、その間に医薬品の臨床試験に関する規程を制定し、治験への積極的な取り組みをされ、また外来医長、病棟医長を設置して外来、病棟の管理・運営体制を構築されました。更に地域医療連携の充実にも取り組まれ、平成６年には特定機能病院の承認を受けるなど兵庫医科大学病院の管理、運営に大きく貢献されました。教授をご退職後平成12年11月に兵庫医科大学学長になられてからは、チュートリアル教育や短期集中型カリキュラムの導入、モデル・コア・カリキュラムの導入にむけての取り組みなどをされ、教育面での改革にも積極的に取り組まれ、教育の充実にご尽力されました。先生は真に学問を愛され研究に対する情熱は終生変わらないphysician scientistでした。その研究業績は代謝病学、消化器・肝臓病学、臨床腫瘍学、呼吸器病学等の広い範囲に亘り、何れも国際的にも高く評価されており、それらを背景に学会活動にも力を注がれ、日本痛風核酸代謝学会理事長を始め、多くの学会の理事、評議員、幹事などの要職を歴任され、兵庫医科大学の知名度を国内外で高めていただきました。

２期目の学長になられることが教授会で決まった頃から、体調を崩され、一時は健康を回復されてロータリークラブなどにも出席をし、お元気な姿を見せておられましたが残念なことに幽明境を異にされました。

現在、医科大学は改善・改革が求められており、その中にあって兵庫医科大学が更に取り組むべきは、学生を中心に据えた医学教育の一層の充実、世界を視野に入れた研究の推進、患者さんを中心とした安全な医療の実践、だと考えています。先生のこれまでのお教えを胸に留めて兵庫医科大学は前進してまいります。どうぞ天国から私たちの行方を見守ってください。先生、安らかにお休み下さい。

合　掌

平成19年10月27日

兵庫医科大学　学長　波田　壽一

平成19年度事業計画の進捗状況（第２四半期終了時点）

兵庫医科大学では８月に知的財産統括室を設置し、専任職員を配置しました。引続き、知的財産管理体制の整備に取組んでいきます。教育機能の強化については第３、４学年次を対象として９月期のレベルアップ選択科目「e-learning」を開講しました。また、大学院では、７月から９月にかけて共同利用施設オリエンテーション及び研究技術講習会を開催しました。教育内容の改善の一環として、講師を招聘し指導教員に対するFDを開催します（10月）。

病院では４月から９月までの平均在院患者数は目標値に達していませんが、増加傾向にあります。病床運営においては病床の円滑な運用を図るべく、協力病院として４病院と契約を締結し、さらに２病院との医療連携実施に向けて調整中です。また、外来化学療法室を有する「がんセンター」を開設します（11月）。

篠山病院は入院患者数及び外来患者数の増加に向け、今後も地域医療機関との調整を進めていきます。また、ささやま老人保健施設は長期入所者・短期入所者及び通所リハビリ・予防リハビリ利用者の安定した確保に向けて、近隣病院との連携体制の整備等に取組みます。

兵庫医療大学では７・８月に、オープンキャンパスを４回実施しました。また、大学付属施設の拡充については「兵庫医療大学医薬共同先端医療研究センター」が竣工し、兵庫医療大学薬学部と兵庫医科大学医学部との共同研究プロジェクトが10月からスタートします。

（総務課）

規程等の制定・改正

	項　　目	制定・改正の趣旨	制定･改正日
1	兵庫医科大学発明規程	兵庫医科大学の職員によって創作された発明に関する取り扱いについて制定	４月１日
2	発明委員会規程	兵庫医科大学発明規程に定める委員会について制定	４月１日
3	兵庫医科大学病院院内がん登録に関する規程	兵庫医科大学病院内がん登録業務の適正な管理及び運用を図ることを目的として設置する院内がん登録室並びに院内がん登録の実施に必要な事項を制定	６月21日
4	兵庫医科大学病院臨床研究審査委員会規程	兵庫医科大学病院医薬品等臨床研究受託に関する規程に基づく兵庫医科大学病院臨床研究審査委員会の必要な事項を制定	７月１日
5	学生相談室規程	学生相談室における情報の必要な範囲での開示・守秘義務について改正	７月５日
6	特別聴講学生、特別研究学生取扱内規	入学辞退者に対する授業料返還の取扱いに係る改正	９月18日
7	クリニカルパス推進委員会規程	委員会の円滑な運営のため副委員長を置くため改正	９月20日
8	救命救急センター運営委員会規程	診療科目変更等による改正	９月20日
9	兵庫医科大学病院脳死下臓器提供に関する委員会規程	診療科目変更等による改正	９月20日
10	兵庫医療大学特任教授設置規程	兵庫医療大学の教育・研究の活性化を図るため学外より学術研究の分野で優れた実績を有する人材を一定の期間任用する制度について制定	10月１日
11	医療安全管理規程	診療情報の開示を含めた医療安全情報の提供を推進し、患者・家族と医療従事者が医療情報を共有し、より効果的な医療を提供出来るようにすることを目的とした改正	10月１日
12	栄養委員会規程	事務局の組織変更に伴う改正	10月15日
13	兵庫医科大学学則	解剖学・生理学・病理学を統合し関連するナンバー講座の壁をなくすことを目的とした改正	10月22日
14	兵庫医科大学大学院学則	解剖学・生理学・病理学のナンバー講座等の統合及び「がんプロフェショナル養成プラン」採択に伴う大学院授業科目変更のため改正	10月22日
15	兵庫医科大学がんセンター運営規程	がん治療を横断的に扱う「兵庫医科大学がんセンター」を運営するため制定	11月１日
16	兵庫医科大学がんセンター運営委員会規程	兵庫医科大学がんセンターの円滑な運営を行うための委員会について制定	11月１日
17	兵庫医科大学動物実験委員会規程	遺伝子組換え動物を使った動物実験の承認に当って遺伝子組換え実験に熟知した委員を構成員に加えるため改正	11月６日
18	臨床研修医管理規程	新医師臨床研修制度（平成16年度）実施当時に制定された規程を現状に即して改正	11月28日
19	感染対策委員会規程	委員会の目的の明確化と構成委員の追加について改正	11月28日
20	兵庫医科大学就業細則	看護師の労働環境改善、特定機能病院として患者さんに質の高いケアを提供することを目的とした病棟の２交替勤務導入のため改正	12月１日
21	兵庫医科大学給与規程	平成19年度賞与の年間支給率及び冬期賞与算定変更並びに看護師の２交替勤務導入のため改正	12月１日

	項　　目	制定・改正の趣旨	制定･改正日
22	兵庫医科大学篠山病院給与規程	平成19年度賞与の年間支給率及び冬期賞与算定変更のため改正	12月１日
23	兵庫医科大学ささやま老人保健施設給与規程	平成19年度賞与の年間支給率及び冬期賞与算定変更のため改正	12月１日
24	兵庫医療大学給与規程	平成19年度賞与の年間支給率及び冬期賞与算定変更のため改正	12月１日
25	大学院学費免除内規	学費免除対象に「経済的に修学困難な」条件を追加するため改正	12月１日
26	兵庫医療大学における任期を定めて採用する教員に関する規程	教育・研究等の充実向上をはかるため、教員相互の学問的交流を活発にし、多様な人材を受け入れることを可能にするため制定	12月１日

（規程等の全文は学内ネットに掲載）

役員・評議員の異動

理　事

再　任

岩﨑　忠昭　理事（平成19年12月１日付）

評 議 員

就　任

木曽　賢造　評議員（平成19年11月30日付））

木曽評議員は、昭和18年生まれ、46年３月大阪大学医学部卒業、55年４月協立病院開設、57年９月医療法人　協和会設立　理事長(現)、平成元年１月社会福祉法人　寿楽福祉会設立　理事長(現)、平成２年４月川西市医師会理事　副会長(現)、平成16年５月ユナイトライフ株式会社　取締役(現)。

再　任

吉岡　濟　評議員（平成19年11月30日付）

退　任

高光　義博　評議員（平成19年11月29日付）

人　事　異　動

〔西宮キャンパス〕

兵庫医科大学・兵庫医科大学病院

※併任、兼任等の解除は下記に載せておりません。

〔併　　任〕

発令日	氏　　名	併任後の職名〔所属〕
19.11.1	山 田　　繁 代	看護部長 兵庫医科大学病院副院長（療養環境担当）併任 兵庫医科大学附属看護専門学校長併任

〔昇　　任〕

発令日	氏　　名	昇任後の職名〔所属〕
19.10.1	瀬 尾　　徹	准教授〔耳鼻咽喉科学〕
〃	山 本　　悟 史	教授〔兵庫医療大学　薬学部〕

発令日	氏　　名	昇任後の職名〔所属〕
19.11.1	多 田 羅 恒 雄	准教授〔麻酔科学〕
〃	川 端　　啓 太	准教授〔総合診療部〕

〔配置換え・兼任等〕

発令日	氏　名	異動後の職名〔所属〕
19.8.16	森　可智	助教〔内科学　冠疾患科〕 救命救急センター兼務
19.9.1	三代　康雄	准教授〔耳鼻咽喉科学〕 耳鼻咽喉科診療副部長兼任
〃	北野　英人	助教〔総合診療部〕 総合診療部病棟医長兼任
〃	奥　智子	助教〔総合診療部〕 総合診療部外来医長兼任
〃	中尾　伸二	助教〔内科学　循環器内科〕 救命救急センター兼務
〃	大家　宗彦	助教〔救命救急センター〕 救命救急センター医局長兼任
〃	日野　隆夫	学務部知的財産統括室主任
19.9.16	吉川　麗月	助教〔遺伝学〕 臨床遺伝部兼務
〃	近藤　展行	助教〔呼吸器外科学〕 呼吸器外科外来医長兼任
19.10.1	堀　和敏	講師〔内視鏡センター〕
〃	大島　忠之	講師〔内科学　上部消化管科〕 内科　上部消化管科医局長兼任
19.10.1	山本　憲康	助教〔内科学　上部消化管科〕 内科　上部消化管科外来医長兼任
19.10.16	堀　和敏	講師〔内視鏡センター〕 内視鏡センター医局長兼任 内科学　上部消化管科兼務
〃	岩田　恵典	助教〔内科学　肝・胆・膵科〕 内視鏡センター兼務
〃	金森　徹三	助教〔内科学　冠疾患科〕 救命救急センター兼務
〃	高長　明律	助教〔精神科神経科学〕 精神科神経科病棟医長兼任
〃	山﨑　邦弘	事務員(主任級)〔神戸キャンパスオフィス入試・就職グループ〕
19.10.23	宮崎　智晴	看護主任〔看護部（6階東病棟）〕
19.11.1	弓場　雅夫	助教〔内科学　循環器内科〕 救命救急センター兼務
〃	太田　武彦	経営企画室経営企画課長補佐 病院事務部医療情報課兼務

〔採　用〕

採用日	氏　名	職　名〔所属〕
19.8.16	髙瀬　尚子	看護師〔看護部（9階東病棟）〕
〃	澤　久美子	看護師〔看護部（10－8病棟）〕
〃	冨和　洋子	臨床検査技師(嘱)〔臨床検査部〕
〃	米田　和恵	実験補助（嘱)〔呼吸器外科学〕
19.9.1	坂　直樹	助教〔耳鼻咽喉科学〕
〃	宇和　伸浩	病院助手〔耳鼻咽喉科〕
〃	池田　和世	病院助手〔ペインクリニック部〕
〃	米田　弥里	看護師〔看護部（中央手術部）〕
〃	栗本　靖子	看護師○〔看護部(人工透析室)〕
19.9.16	海老名俊亮	助教△〔小児科学〕
〃	大嶋　勉	助教△〔外科学〕
〃	金　玖早	看護師〔看護部（6階東病棟）〕
〃	俵原　光子	看護補助(準)〔看護部(7階西病棟)〕
〃	丸尾　妙子	看護師(嘱)〔看護部(内視鏡センター)〕
19.10.1	矢口　貴博	助教〔生理学第2〕
〃	金森　徹三	助教△〔内科学　冠疾患科〕
〃	海田　勝仁	助教△〔内科学　血液内科〕
19.10.1	福井　伸哉	助教〔心臓血管外科学〕
〃	大西　正明	財務部次長〔財務部〕
〃	岸根　麻衣	薬剤師○〔薬剤部〕
〃	田中　麻紀	視能訓練士○〔眼科〕
〃	小柳　和子	看護師〔看護部（7階西病棟）〕
〃	徳山和香奈	看護師〔看護部（8階東病棟）〕
〃	安東　英里	看護師〔看護部（10階西病棟）〕
〃	前田　綾子	看護師〔看護部（10－8病棟）〕
〃	東野　吏紗	薬剤師（嘱)〔薬剤部〕
〃	武田　諒子	視能訓練士（嘱)〔眼科〕
〃	仲谷　怜子	実験補助(嘱)〔内科学　肝･胆･膵科〕
19.10.16	佐竹　真	助教△〔外科学〕
19.11.1	三好　康雄	准教授〔外科学〕 外科診療部長兼任
〃	内藤　由朗	助教〔内科学　循環器内科〕
〃	日吉　麻紀	看護師〔看護部（7階西病棟）〕

△は病院助手から助教に、○は嘱託職員から職員に採用された者を示す。

〔退　　職〕

退職日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.8.10	竹部　沙樹	看護師〔看護部(泌尿器科外来)〕
19.8.15	柳生　利彦	助教〔外科学〕
〃	根耒絵里香	看護師〔看護部(中央手術部)〕
19.8.31	深澤啓二郎	准教授〔耳鼻咽喉科学〕
〃	三宅　光富	助教〔内科学　呼吸器・RCU科〕
〃	宮本　篤志	助教〔耳鼻咽喉科学〕
〃	橋本　健吾	病院助手〔耳鼻咽喉科〕
〃	中山　　奨	レジデント〔皮膚科〕
〃	長谷中秀光子	看護師〔看護部(10階西病棟)〕
〃	高田　育江	看護師〔看護部(ICU)〕
〃	豊永　沙織	実験補助（嘱）〔呼吸器外科学〕
〃	佐良木史絵	学生相談員(嘱)〔学務部教務学生課〕
〃	若松　有紀	学生相談員(嘱)〔学務部教務学生課〕
19.9.15	下堂　静美	看護補助(準)〔看護部(7階西病棟)〕
19.9.30	坂上　　隆	准教授〔内視鏡センター〕

退職日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.9.30	森田　　毅	助教〔内科学　下部消化管科〕
〃	野々村智子	病院助手〔麻酔科〕
〃	高橋　和子	病院助手〔リハビリテーション部〕
〃	三島　裕彦	副主任薬剤師〔薬剤部〕
〃	周　　あい	視能訓練士〔眼科〕
〃	吉田八州美	助産師〔看護部(6階東病棟)〕
〃	宮永　明子	看護師〔看護部(10階東病棟)〕
〃	元村　優子	看護師〔看護部(中央手術部)〕
〃	岡崎　一美	看護師〔看護部（内科外来)〕
〃	川端千賀子	看護師(嘱)〔看護部(内視鏡センター)〕
〃	徐　　静嫻	実験補助（嘱)〔眼科学〕
19.10.31	藤本　泰久	講師〔外科学〕
〃	中尾　伸二	助教〔内科学　循環器内科〕
〃	山下　陽子	看護師〔看護部(7階西病棟)〕
〃	金岡　伸一	臨床研修医〔卒後臨床研修センター〕

〔篠山キャンパス〕

篠山病院

※併任、兼任等の解除は下記に載せておりません。

〔配置換え・兼任等〕

発令日	氏　　名	異動後の職名〔所属〕
19.10.1	池田　義和	准教授〔兵庫医科大学篠山病院〕 兵庫医科大学篠山病院医局長兼任 兵庫医科大学篠山病院産婦人科医長兼任

〔採　　用〕

採用日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.11.1	和田由里子	准看護師(嘱)〔医療技術部(看護部門)看護課外来部門〕

採用日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.11.1	大西　賀子	看護補助(嘱)〔医療技術部(看護部門)看護課外来部門〕

〔退　　職〕

退職日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.10.15	溝口　清美	准看護師〔医療技術部(看護部門)看護課中央部門〕
19.10.31	小谷　貞子	篠山病院事務部医事課医事係長

退職日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.10.31	南都　香織	作業療法士〔医療技術部(医療技術部門)リハビリテーション室〕

〔神戸キャンパス〕

兵庫医療大学

※併任、兼任等の解除は下記に載せておりません。

〔配置換え・兼任等〕

発令日	氏　　名	異動後の職名〔所属〕
19.10.17	山本　晴生	総務部参事 株式会社エイチ・アイ出向

〔採　　用〕

採用日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.10.1	田中　康一	助教〔薬学部〕

〔退　　職〕

退職日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.9.30	錦織　典子	神戸キャンパスオフィス図書館・情報グループリーダー

平成19年度 永年勤続表彰対象者

（敬称略・50音順）

祝・勤続30周年

氏　名	所　属
上野　厚美	学務課
大内　晴美	法医学
掛田　満寿美	薬剤部
川畑　節子	看護部（6－1病棟）
壽　初恵	医事課
坂口　美恵子	神戸キャンパスオフィス管理･運営グループ
長村　孝子	看護部眼科外来
畑中　禄子	薬剤部
花畑　美智代	篠山看護課第2病棟
濱川　美智子	看護部（第一外科外来）
濵口　常男	薬剤部
藤岡　多賀子	看護部（6－1病棟）
藤塚　美代子	看護部（内視鏡センター）
三浦　光太郎	視聴覚教育センター事務室
水谷　秀子	看護部（内科外来）
溝口　昌子	医事課
室　親明	薬剤部
森　不二子	臨床栄養部
森　礼子	臨床心理部
森田　真由美	図書課

祝・勤続20周年

氏　名	所　属
円増　和美	看護部（10－6病棟）
笠松　由利	看護部（10－8病棟）
狩野　春艶	臨床検査部
清水　真幸	看護部（8－1病棟）
髙橋　仁美	医療安全管理室
髙比良　法子	看護部（7東病棟）
田中　進	視聴覚教育センター事務室
峠田　和子	看護部（CCU）
津田　薫	薬剤部
豊澤　利江子	看護部（内視鏡センター）
畠田　典子	臨床検査部
濵政　明宏	資材課
牧原　佐知子	超音波センター
村岡　玲子	薬剤部
山田　寿美子	看護部（NICU）
和田　智弘	篠山病院リハビリテーション室

祝・勤続10周年

氏　名	所　属
芦田　小夜子	篠山病院看護部門
池田　宣子	看護部（内科外来）
石井　さかゑ	篠山看護課外来部門
石田　朝美	篠山看護課第2病棟
伊藤　智都子	看護部（中央手術部）
乾　祐子	看護部（中央手術部）
猪野　慶浩	看護部（8－1病棟）
井上　綾子	篠山看護課第3病棟
井上　多津子	篠山病院事務部庶務課
井上　千亜紀	薬剤部
植田　奈津子	看護部（7西病棟）
大森　千賀子	篠山看護課第2病棟
奥村　明美	篠山看護課外来部門
奥山　章子	篠山看護課第1病棟
川越　英子	看護部（人工透析室）
河本　幸子	篠山看護課第2病棟
北川　佳子	篠山病院事務部会計課
木村　知行	医療安全管理室
國富　幸江	看護部（8西病棟）
古瀬　佳美	看護部（9東病棟）
小寺　斉人	総務課（出向）
後藤　浩	病歴課
小牧　よし子	看護部（6西病棟）
駒谷　典子	篠山看護課第3病棟
齋藤　とし子	篠山看護課中央部門
佐圓　恵子	篠山看護課第3病棟
澤田　亜希	医事課
塩見　真寿美	篠山看護課第2病棟
清水　直生	篠山看護課第1病棟
清水　美香	研究技術第2課
髙橋　俊子	篠山看護課第1病棟
辰見　明俊	薬剤部
谷尾　律子	篠山看護課第3病棟
谷口　祥子	看護部（6西病棟）
谷後　純子	篠山看護課第3病棟
土井　さおり	篠山病院薬剤室
遠山　繁子	篠山看護課第2病棟
戸出　知子	篠山看護課第5病棟
仲井　佐代子	篠山看護課中央部門
中島　有美子	看護部（6東病棟）
西畑　友紀	看護部（麻酔科外来）
西村　悦子	篠山看護課第5病棟
西本　久美	老健事務部介護事務課
西本　弘美	篠山看護課第1病棟
西山　静香	篠山看護課第1病棟
橋本　啓子	篠山看護課第2病棟
原田　佐知子	篠山看護課第3病棟
阪東　紀子	篠山看護課第5病棟
馬場　二美	篠山看護課第5病棟
平川　弘美	看護部（内科外来）
平野　たまゑ	篠山看護課第3病棟
福垣　ひづる	老人保健施設療養室
藤井　洋子	看護部（7西病棟）
細見　英司	篠山病院事務部会計課
堀井　フサ子	篠山病院事務部医事課
堀井　義規	篠山病院事務部会計課
三浦　恵美子	看護部（8東病棟）
宮野　ゆかり	看護部（10－6病棟）
矢嶋　克美	看護部（7東病棟）
矢野　幼子	篠山看護課第2病棟
山田　栄美	篠山病院検査室
山本　和美	篠山看護課外来部門
雪岡　廣子	篠山看護課外来部門
吉田　智子	看護部（10－9病棟）
藁田　希世和	看護部（8－1病棟）

平成19年度　自衛消防訓練（総合訓練）実施

11月7日㈬午後3時より、1号館8西病棟にて、深夜帯の火災を想定し参加者約100名で自衛消防訓練を行いました。仮想患者29名を8西病棟から7階の東ロビーに一次避難させた後、消防署による梯子車救助が実施されました。

鳴尾消防署　中島署長と山村病院長から訓練の講評後、5号館南側芝生に移動し消防署員の指導のもと、スモーク体験と消火器の取扱い訓練を実施しました。

今回の訓練では、イーバックチェア（階段避難用車椅子）をはじめて取り入れ、避難時におけるその有用性が改めて確認できました。

消防署による梯子車救助（8階より撮影）

イーバックチェアを使っての避難

仮想患者の避難誘導

セクシュアルハラスメント防止等に関する講演会

10月22日㈪、3－3講義室において、㈶21世紀職業財団の藤原寛子講師を招いて、本学では2回目の「セクシュアルハラスメント防止等に関する講演会」が開催されました。

当日は、教員21名、医療技術職71名、事務職、他44名と前回を上回る136名の出席がありました。

日常の何気ない言動がセクハラに繋がることもあり、職場でのハラスメントに対する適切な対処とともに未然の防止が何より重要となります。

（総務部）

教職員提案制度の実施

業務等の「ムダ・ムラ・ムリ」をなくす提案を求め、また今後の組織運営のための参考とするため、12月から提案制度を設けることになりました。部門単位の改善・改革から全学的な改善・改革まで幅広く提案を募ります。積極的にご提案くださいますようよろしくお願いいたします。

（広報課）

・主要会議とその議題・

理 事 会

（9月25日）
○故東野一彌前学長の公葬について
○人事について
○客員教授の委嘱について
○クロアチア共和国出張中の学長代行について
（10月22日）
○人事について
○兵庫医療大学特任教授設置規程の制定について
○兵庫医科大学学則の一部改正について
○兵庫医科大学大学院学則の一部改正について
○兵庫医療大学体育館建設について
（11月26日）
○人事について
○評議員の選任について
○入試センター規程及び入試運営委員会規程の一部改正について
○就業細則等の一部改正について
○平成19年度冬期賞与について
○平成19年度決算対応について
○平成19年度収支補正予算について
○篠山病院の存続について
○固定資産の一部処分について

評議員会

（10月22日）
○兵庫医科大学学則の一部改正について
○兵庫医科大学大学院学則の一部改正について
○兵庫医療大学体育館建設について
（11月26日）
○理事の選任について
○平成19年度決算対応について
○平成19年度収支補正予算について
○篠山病院の存続について
○固定資産の一部処分について

常 務 会

（9月4日）
○故東野一彌前学長の公葬について
○人事について（准教授2名）
○客員教授の委嘱について
○外国出張（クロアチア共和国Rijeka大学医学部との調印式出席）について
○医科大学・医療大学連携実習教育について
○平成20年度文部科学省施設整備費補助金（4千万円以上の装置）の申請について
（9月18日）
○人事について
○クロアチア共和国Rijeka大学出張中の学長代行について
○兵庫医科大学大学院学則の一部改正について
○特別聴講生、特別研究学生取扱内規の一部改正について
○入退院管理プロジェクトチーム（仮称）の設置について
○動物実験（P2A）用飼育器材一式について
○眼科手術用顕微鏡について
○PDT（光線力学療法）システムについて
○パノラマX線撮影・画像処理装置について
○心電図記録解析装置（長時間ホルターワークステーション）について
○文部科学省補助金申請機器の選定方針について
（10月3日）
○がんセンター運営規程の制定について
○放射線治療部門の整備について
○兵庫医療大学特命教授設置規程（案）及び特命教授任用について
○兵庫医療大学体育館に係るワーキンググループについて
○兵庫医療大学学生募集活動「高校訪問」の実施について
○隣接開発物件の有効活用について
（10月17日）
○人事について
○兵庫医科大学大学院学則の一部改正について
○任期制教員の再任にかかる審査方法等について
○入試センター規程及び入試運営委員会規程の一部改正について
○がんセンター運営規程の制定について
○兵庫医療大学体育館建設について
○篠山病院の存続について
（11月6日）
○人事について
○篠山病院の存続について
○動物実験委員会規程の一部改正について
○就業細則等の一部改正について
○放射線治療部門の整備について（再付議）
○平成19年度冬期賞与について
○血液培養検査装置について
○学校法人兵庫医科大学大学連携協議会と医学・医療教育センターの活動について
○入学定員管理（特に薬学部）について
○広報戦略としての主要駅構内看板広告について
○兵庫医療大学体育館建設計画について
（11月13日）
○理事・評議員の選任について
○平成19年度冬期賞与について
○平成19年度収支補正予算について
（11月20日）
○人事について
○平成19年度冬期賞与について（再付議）

○篠山病院の存続について
○大学院学費免除内規の一部改正について
○給与規程（兵庫医科大学、篠山病院、ささやま老人保健施設、兵庫医療大学）の一部改正について
○平成19年度決算対応について
○人間ドック等の健診事業について
○密閉型自動包埋装置について
○固定資産の一部処分について
○兵庫医療大学における任期を定めて採用する教員に関する規程の制定について
○兵庫医療大学キャンパス近隣の体育館借用について
○学校法人兵庫医科大学教職員提案制度に関する実施要領の制定について

兵庫医科大学 教授会

(10月４日)
○教員の人事について
○教員選考委員会の設置について（呼吸器・RCU科）
○入試センター規程及び入試運営委員会規程の一部改正（案）について
○任期制教員の再任に係る審査方法等について(再付議)
○平成19年度第１～第４学年次定期試験(11月～12月期)日程表（案）について
○平成19年度第２及び第４学年次学年末再試験日程表（案）について
○平成19年度卒業総合試験実施要領について（案）
○平成19年度第６学年次卒業認定保留者卒業判定試験実施要領について（案）
○平成20年度カリキュラムについて（案）
○白衣授与式について（案）
○外国人特別短期研究員の受入れ等について
○平成19年度研究生の入学について（追加）
○学外出講について
○外国出張について
(11月１日)
○教員の人事について
○教員選考委員会の設置について
○「兵庫医科大学動物実験委員会規程」の一部改正について（案）
○平成19年度総合進級試験（５年）実施要領について
○平成19年11月～平成20年４月行事予定表（教務関係）について
○外国人特別短期研究員の受入れ等について
○平成19年度研究生の入学について（追加）
○学外出講について
○その他
(11月16日)
○平成20年度推薦入学試験の合格者について
○学生の懲戒について

兵庫医療大学 大学協議会

(10月１日)
○設置計画履行状況実施調査(AC)の対応最終確認
○「兵庫医療大学特命教授設置規程（案)」について
○休講と補講について
○平成19年度補正予算について
○平成19年度事業計画進捗状況報告について
○高校訪問学部担当者の割当について
○「神戸ポートアイランド４大学連携協定書（案)」について
○「大学コンソーシアムひょうご神戸」委員会委員の選任について
○10月24日の全学討論会の日程について
○兵庫医療大学医薬共同先端医療研究センター規程(案)について
○兵庫医療大学医薬共同先端医療研究センター運営委員会規程（案）について
○学生のサークル活動に関する補助について
(10月15日)
○設置計画履行状況実地調査(AC)後の対応について
○全学討論会について
○兵庫医療大学特認教授設置規程（案）について
○一般入学試験(前期A日程)学外試験場の借用について
○入試判定のための入試運営委員会・臨時教授会について
○毒物及び劇物の管理マニュアル（案）について
○推選入学試験の指定校制度について
○リザーブ用地の使用方法について
○３学部合同カリキュラムについて
○レストラン、売店の運営について
(11月７日)
○体育館建設について
○医学・医療教育センターについて
○2008年度事業計画の策定及び予算編成フローとスケジュールについて
○推選入試（専願制）の実施体制の確認
○入学定員管理（特に薬学部）について
○看護学部編入学試験要項（案）について
○主要駅構内看板広告の更新について
○保護者への大学現況報告について
○第３回FD研究会「PBL・チュートリアル講習」について
○学生会発足と今後の活動について
○関電グランド借用交渉の進捗状況について
○「神戸ポートアイランド4大学連携協定書(案)」について
○４大学連携「単位交換制度」の検討について
○４大学連携（防犯・護身術講習会」の開催について
○「大学協議会議事内容の公開」について
○教員の研究等の業績集約方法について
○教員討論会について

・お・知・ら・せ・

兵庫医療大学のための募金 状況報告

「兵庫医療大学」のための募金活動を平成18年5月に開始して以来、これまでに教職員をはじめ、後援会（保護者）、緑樹会（卒業生）、名誉教授、退職者等（606名）は言うに及ばず協力医療機関や関連病院等を始めとする幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。

本学校法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、感謝の意を表したいと存じ、下記のとおり報告させていただきます。

本学法人は、皆様からご寄付いただきました寄付金を兵庫医療大学の教育研究用施設整備等充実に利用させていただくとともに、これからも全力で大学の合理化推進等により、必要資金確保に向けて自主的努力を重ねてまいりますが、加えて、ぜひとも関係各方面からのさらなるご支援を仰ぎお力添えをいただきたく、引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（募金推進室）

記

18.5.2～19.10.31

区　分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合　　計	
	件数	金　　額	件数	金　　額	件数	金　　額
申　込	264件	538,464,000円	606件	125,540,000円	870件	664,004,000円
入　金	248件	414,814,000円	588件	123,520,000円	836件	538,334,000円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

19.9.1～19.10.31

[企業等法人]（12法人）

（ご芳名のみ記載）

宮野医療器　株式会社様
株式会社　ゼクスアクティブ・エイジ様
フクダ電子兵庫販売　株式会社様
バイオメット・ジャパン　株式会社様
株式会社　日本医化器械製作所様
財団法人　化学物質評価研究機構様
匿名　6法人

[関連病院等]（3法人）

500,000円　坂上田病院様

（ご芳名のみ記載）

医療法人社団　大植クリニック様
医療法人恵生会　恵生会病院様

[緑樹会]（2名）

100,000円　梅名　英生様
100,000円　位藤　俊一様

[退職者]（1名）

（ご芳名のみ記載）

松村　マツエ様

[その他個人]（1名）

匿名　1名

[教職員]（7名）

600,000円　末廣　　謙様
250,000円　福田　能啓様
250,000円　八野　芳巳様
150,000円　菊地　良平様
100,000円　吉永　和正様
匿名　2名

（順不同）

[新聞掲載　2007年10月～12月]

〝がん治療のプロ〟大学の壁超え養成

専門の医師や看護師ら

兵庫医大・神戸大・神戸看護大と大阪3大学

来月から5年間 チーム医療充実目指す

兵庫医大、神戸大、神戸市看護大の県内3大学が、大阪府内の3大学とグループを組んで「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン」を制定。11月からがん治療専門の医師や看護師などを育成する取り組みを始める。全国で18グループの案が採択された文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」の一つで、期間は2011年までの5年間。グループ内で共通の講義を実施するなどしながら、県内のがん治療のレベル向上を図る。

米国では1970年代からがんの専門医制度が確立されているが、国内では制度が出遅れ、がん専門医の割合が少ない。県内だけでも年間約5万人のがん患者が入院治療をしており、今後もがん患者は増加するとみられる。今回のプランは、がんに特化した医師、看護師などを育成することで、チーム医療を充実させることが狙い。来年4月までに、各大学の大学院にがんを専門に学ぶコースを設けたり、既に医療現場で働いている医師や薬剤師、看護師向けの講座を開いたりする。

全国でさまざまな取り組みをするが、兵庫・大阪グループの特長としては、末期がん患者を苦しめる激痛を緩和するため、麻薬性鎮痛剤を適切に処方できる医師を養成する▽臓器別の専門医ではなく、どの臓器のがん治療にも対応できる内科医や外科医などを育成する――などが掲げられている。山村武平・兵庫医大病院長は「大学の壁を超えがんの研究が行われることは意義深い」と話している。

【津久井達】

〈平成19年10月20日　毎日新聞（朝刊）〉

地震で負傷者多数 トリアージ訓練

兵庫医大

西宮市武庫川町の兵庫医科大病院で26日、地震を想定した防災訓練があり、医師や看護師ら約100人が患者の治療や搬送の優先順位を決めるトリアージなどに取り組んだ。

市の総合防災訓練の一環として実施され、兵庫医療大の学生約30人も負傷者役で協力した。大規模地震が発生し、近くの同市東鳴尾町を中心に家屋の倒壊などでけが人が出たと想定。若手医師3人が現場指揮者の「トリアージオフィサー」を務め、その指示を受けながら看護師らが次々と運び込まれてくるけが人を容体に応じて3分類し、病棟やホールに設けた臨時救護所へ誘導した。

訓練後、丸川征四郎救命救急センター長は「トリアージオフィサーの役割がまだ十分把握しきれていない点もみられ、周知する必要がある」などと講評した。

訓練で搬送されてきたけが人を担架に移す看護師ら（兵庫医大病院で）

〈平成19年10月27日　読売新聞（朝刊）〉

防犯対策や護身術学ぶ

ポーアイの4大学 合同企画に84人

県警が出前講座

防犯対策や護身術を警察官が指導する講習会が二十八日、中央区・ポートアイランドの兵庫医療大であった。ポーアイに今春進出した兵庫医療大、神戸学院大、神戸夙川学院大のほか、以前からあった神戸女子大・短大の学生ら八十四人が参加した。

ポーアイで急増した学生に、犯罪に巻き込まれないための心構えを学んでもらおうと、四大学が初めて企画した。

この日はまず、神戸水上署生活安全課の広瀬靖彦巡査部長が犯罪への対処法を講義。「空き巣は憶病なので、光や音を発するセンサーを設置する」「自転車の前かごの荷物に雑誌を載せるだけで、ひったくり防止に効果的」「ストーカーには拒絶の意思を示すこと、不快なメールを消去せず証拠として残すことが大事」などと説明した。

続いて、県警教養課の指導員が痴漢撃退法を伝授。片手で腕をつかまれたときはわきをしめて自分の体のほうに手を引き、相手を振りほどく▽後ろから抱きつかれた場合は相手の人さし指を力いっぱい曲げる―などの技を、学生らは繰り返し練習していた。

兵庫医療大一年の西川那美さん(一八)は「教わったことを、とっさの場面に出せるよう心がけたい」と話していた。

講習会は二十九日も兵庫医療大で開かれる。

（佐藤健介）

痴漢に抱きつかれたときの逃げ方を練習する大学生ら―中央区港島1

〈平成19年11月29日　神戸新聞（朝刊）〉

B型肝炎とは　特徴と治療法は

兵庫医科大学（内科学 肝・胆・膵科）西口 修平教授に聞きました

肝がんや肝疾患は、日本人の死因の上位を占める病気で、これらを引き起こす大きな要因となっているのがウイルス性肝炎だ。薬害問題でニュースに取り上げられることの多いC型肝炎に比べ、B型肝炎はウイルス保有者（キャリア）の状況によって治療法が異なり、治療にはより専門的な対応が求められる。国は国内最大の感染症である肝炎の対策として、各都道府県に肝炎対策協議会を設けることを決め、このほど兵庫県にも発足した。協議会の委員長を務める兵庫医科大学の西口修平教授に、B型肝炎の特徴や治療法、協議会の取り組みについて話を聞いた。

「40歳以上の方は一度検査を」と話す西口教授＝西宮市、兵庫医科大学

にしぐち・しゅうへい　大阪市立大学医学部卒。米国ソーク研究所客員研究員、大阪市立大学助教授などを経て現職。日本肝臓学会評議員、厚生労働省のB・C型肝炎対策研究班班員のほか、2007年11月に発足した兵庫県の肝炎対策協議会の委員長も務める。専門はウイルス性肝炎の診断と治療、肝細胞がんが発生する仕組みの検討と発がん予防など。

慢性化すると肝硬変 肝がん発症のおそれも

B型肝炎ウイルスが引き起こす肝臓病

40歳以上はぜひ検診を

兵庫県の肝疾患診療連携拠点病院となった兵庫医科大学＝西宮市武庫川町

―B型肝炎とはどのような病気でしょうか。

「B型肝炎ウイルス（HBV）の感染によって起こる肝臓の病気です。ウイルスに対しては体内で免疫機能が働き、これを排除しようとしますが、その際ウイルスだけでなく肝細胞ごと攻撃してしまうために、肝細胞が破壊され肝炎を引き起こします」

「感染は、血液ならびに血液を含む体液を介して起こります。感染経路として最も多いのが、母子感染をはじめとする幼少時の感染で、それに次ぐのが成人期における性行為による感染です。一九八五年以降、母子感染対策が行われてきたため現在、前者による感染はほとんど起きていません」

―慢性肝炎と急性肝炎の違いは何でしょうか。

「幼少時に感染した場合、思春期から三十歳ごろになると免疫機能が発達し、肝炎を発症します。そのうち90％の人は、ウイルスは持っていても肝炎の症状が現れない無症候性キャリアとなる一方で、残り10％の人は治癒せずに慢性肝炎に移行し、適切な治療がなされないと肝硬変や肝がんへと進展するおそれがあります。無症候性キャリアでもいきなり肝がんを発症することがあるので、油断はできません」

「成人期の感染では、日本人に圧倒的に多い遺伝子型のジェノタイプB、Cの場合、急性肝炎を発症し、一部は劇症化する危険性がありますが、慢性化することはほぼありません。しかし、欧米に多いジェノタイプAでは、慢性化するケースがあります。人的な国際交流が盛んになるにつれ、欧米型が近年急増しています」

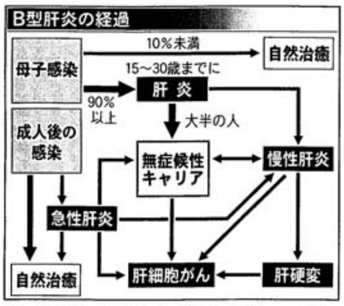
―B型肝炎はがんになりやすいと聞きます。

「肝がんの死因のうち、B型肝炎が約20％を占めます。B型肝炎は遺伝子の染色体の中にウイルスが組み込まれてしまうために、発がんリスクが高いのが特徴です。ウイルスを持っていない人に比べ百倍以上がんになりやすいといわれ、タバコの十倍程度と比較して発がん率が非常に高いことがわかります」

―どのような人が検査を受けるべきでしょうか。

「B型とC型の肝炎ウイルスの保有者は、四十歳以上の二十人に一人いるといわれています。ウイルスを持っていても肝機能が正常な人もいますし、肝硬変になっても自覚症状はありません。検査をしないとわかりにくい病気なので、四十歳以上の方で肝炎ウイルス検査を今まで受けていない人は、一度は検査をするようにしてください。検査は血液検査で、医療機関であればどこでも受けることができます。陽性の人のうち治療を要する人は一割以下ですが、今すぐ治療が必要でない人も、定期的に専門医で診てもらう必要があります」

B型肝炎の経過



B型肝炎の経過はさまざま。無症候性キャリアであっても慢性肝炎や肝細胞がんへと進むことがあるので、安心できない。

肝がん患者の肝炎ウイルス保有割合

＊非B型非C型にもB型由来が含まれる

大阪市立大学肝胆膵外科（1990年４月―2004年12月）の肝がん患者544人の内訳

2006年度 B型慢性肝炎の治療ガイドライン　35歳以上

B型肝炎ウイルスDNA量 (HBV-DNA)	ウイルスゲノム数 (7 LGE/mL以下)	ウイルスゲノム数 (7 LGE/mL未満)
e抗原陽性	① エンテカビル ② インターフェロン 長期間けつ	エンテカビル
e抗原陰性	エンテカビル	エンテカビル

2006年度厚生労働省肝炎等克服緊急対策研究事業（肝炎分野）B型及びC型肝炎ウイルスの感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究

治療法　抗ウイルス剤が効果的 専門医診断で治療方針

―治療はどのように行われるのでしょうか。

「B型肝炎ウイルスの保有者の過半数は、治療の必要がありません。治療対象はウイルス（HBV DNA）の量が一ccあたり十万個以上で、肝機能検査でALT（GPT）が持続的に異常値を呈する方に限られます。慢性肝炎の治療目的は、ウイルス量を十万個以下に落とし、ALTを正常化させることです。その有効な方法として、インターフェロンと抗ウイルス剤の二つがあります」（表参照）

「インターフェロン投与は、免疫力を高めてウイルスを抑え込む治療ですが、年齢とともに免疫の反応性が落ちて効果が期待しづらくなるため、厚生労働省のガイドラインでは、三十五歳を超えた患者の場合、抗ウイルス剤を使うよう推奨しています。また、肝硬変患者には急性増悪をきたすと危険ですので、投与すべきではありません」

「一方、抗ウイルス剤は進行した肝病変の人でも安全に使用できます。このように、年齢やウイルスの状態、肝臓の組織の状態などによって治療法の選択には総合的な判断が必要であり、治療方針を決める際には必ず専門医に診てもらうことをお勧めします」

―抗ウイルス剤にはどのようなものがありますか。

「ラミブジンとエンテカビルの二つがあります。この二つを比較すると、投与を継続したときに薬剤が効かなくなる耐性ウイルスのでき方に大きな違いがあり、エンテカビルは耐性ウイルスが出現しにくいというデータが出ています。ラミブジン投与時に耐性ウイルスが出た場合には、アデホビルという抗ウイルス剤を追加します」

「抗ウイルス剤は、肝機能を正常化する効果があるため、重度の肝硬変患者の肝不全死を防ぐためにも積極的に使われるべきです」

―今年十一月、兵庫県の肝炎対策協議会が発足しました。その狙いについて教えてください。

兵庫県「肝炎対策協」がスタート 診療拠点病院に兵庫医科大学

「県では、県民への肝炎ウイルス検診、陽性者へのフォローアップ事業などの対策に取り組んでいますが、肝炎対策のより一層の推進を図るべく、肝炎対策協議会が設置されました。そして、県における肝疾患の診療ネットワークの中心的な役割を果たす肝疾患診療連携拠点病院として、兵庫医科大学病院が選ばれました」

「B型肝炎は病態が複雑なため、かかりつけ医と専門病院、そして拠点病院がネットワークを組んで、患者さんを診ていく体制が必要です。今後、当病院は各地区の専門病院と連携を図り、情報提供の窓口となるほか、県民からの相談に応じる専門のフリーダイヤルを設けます。兵庫県の場合、特に中部と北部に専門病院がないため、その研修拠点としての機能も持ちます」

「当病院では、内科、外科、放射線科、さらには栄養士、薬剤師らも一体となった集学的な肝臓病センターの新設構想を練っています。これによって、患者さんにとって最適な治療方針とフォローアップが可能になります。拠点病院になったことを契機に県内の肝臓病対策の砦となるべく、体制を整えていく考えです」

〈平成19年12月22日　神戸新聞（朝刊）〉

「ウォーム　ビズ」の実施

地球温暖化対策としての省エネルギー推進のため、今夏はクール ビズ（軽装勤務）にご協力いただきましたが、寒冷期を迎え、冬期期間（12月～3月）は、ウォーム ビズを実施します。

経費の中で、光熱費の比率は大きいため、経費節減にご協力下さい。

① 室内の暖房の温度設定は、暖めすぎにならないようにしましょう。（右表参照）

② 過度に暖房機器に頼らず、働きやすく暖かい服装を着用しましょう。

（施設整備課）

*参考:日本医療福祉設備協会による

部　門	部　屋　名	暖房温度
外来診療部門	待合ホール	22℃
	診察室	24℃
病棟部門	一般病室･人工透析	23℃
	ICU･CCU	25℃
	ナースステイション	22℃
検査部門	検体検査･病理検査･生理機能検査	22℃
放射線部門	CT･MRI室･血管造影室	24℃
	操作室	22℃
手術部門	手術室	22～26℃
	回復室	25℃
	中材･機材庫	22℃
事務管理部門	事務室、会議室	19℃

—おわびと訂正—

広報第190号において誤り・不備がありましたので、おわびして訂正いたします。
5ページ　平成19年度科学研究費補助金交付決定　若手研究(B)

所　属	研究代表者	研究課題名
(誤)		
内科学（下部消化管科）	大島　忠之	細胞間接合装置機能からみた食道粘膜防御機構と新たな病態分類に関する研究
(正)		
内科学（上部消化管科）	大島　忠之	細胞間接合装置機能からみた食道粘膜防御機構と新たな病態分類に関する研究

兵庫医科大学広報　第191号

編集発行：学校法人　兵庫医科大学
広報室　広報課
〒663-8501
西宮市武庫川町1番1号
TEL：0798-45-6655
FAX：0798-48-6261

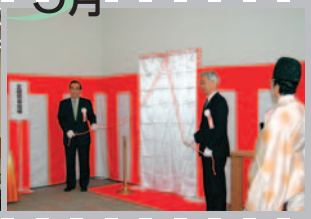
平成19年を振り返って

1月

兵庫医療大学入試

中期事業計画報告会

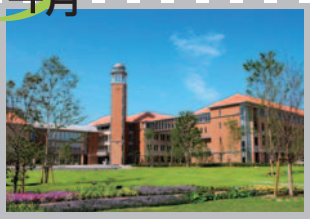
3月



兵庫医療大学竣工式

兵庫医科大学卒業式

4月

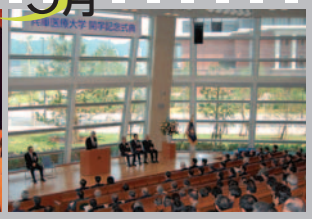


兵庫医療大学開学

兵庫医科大学入学式

兵庫医療大学入学式

5月



兵庫医療大学開学記念式典

7月

兵庫医療大学　４大学連携
合同イベント「学びライブ」

兵庫医療大学
オープンキャンパス

兵庫医科大学
キャンパス見学会

兵庫医科大学　関西学院大学との
学術包括協定締結

8月

兵庫医科大学6大学連携
オンコロジーチーム養成プラン採択

10月

兵庫医科大学とクロアチアRijeka
大学医学部との学術協定

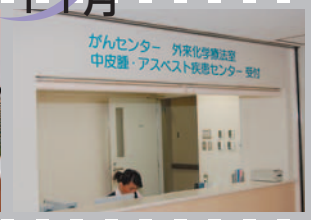
兵庫医科大学
篤志解剖体慰霊祭

兵庫医療大学公開講座

11月

兵庫医科大学病院
防火訓練（トリアージ訓練）

兵庫医科大学東野前学長
大学葬



兵庫医科大学　がんセンター
外来化学療法室開設

兵庫医科大学
自衛消防防災訓練